

安倍川橋の建設 100 周年を祝う

静岡市 建設局 道路部 道路計画課

1. はじめに

静岡市内、一級河川安倍川に架かる安倍川橋が今年で建設から 100 年を迎えました（写真－1）。



写真－1 安倍川右岸から安倍川橋・富士山を望む

安倍川橋のプロフィール

愛称：弥勒橋 延長：490.91 m 幅員：7.27 m
構造：鋼橋
形式：ボーストリングトラス橋 12 径間×35 m
アーチ橋 1 径間×70 m(平成2年架け替え部)

トラス構造の美しさから、地域のシンボルとして親しまれていますが、歴史やまちづくりにおいても魅力豊かな安倍川橋を、この建設 100 周年を契機に多くの方に知ってもらうため「安倍川橋建設 100 周年記念事業」を令和 4 年度から実施しています。

記念事業を通じて、静岡市民に安倍川橋の魅力に触れてもらうことで郷土愛を深める機会とするとともに、普段あまり意識しないインフラを身近に感じることで建設業への関心を深めてもらうこ

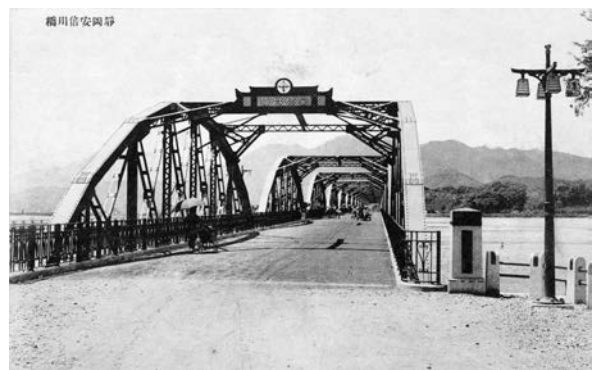
とを当該事業の目的としています。

2. 安倍川橋の魅力

(1) 安倍川橋の建設

安倍川橋は、大正 12 年（1923 年）7 月 23 日に完成し、供用を開始しました。

大正 8 年（1919 年）に旧道路法が制定され、来たる車社会を見据えて、静岡県内では東海道を国道 1 号に指定し、道路整備が進められました。その一環として架けられたのが安倍川橋で、県内の一級河川で第 1 号の永久橋です（写真－2）。



写真－2 建設当時の安倍川橋

(2) 三つの魅力

記念事業では、安倍川橋の魅力として次の三つにフォーカスして、地元を中心に、市内外へと情報発信をする企画を展開しています。

① 架橋の歴史

安倍川橋が建設される50年前の明治7年(1874年)、地元弥勒の有力者 宮崎総五氏が多額の私財を投じて建設した木製の「安水橋」が安倍川に架けられた最初の橋です。その後、「2代目安水橋」を経て、現在の安倍川橋は3代目にあたります。

3代にわたる橋の歴史だけでなく、橋が架かる以前から東海道として多くの旅人が行き来した道であるため、川越しの歴史や安倍川餅、神社仏閣等の豊富な歴史資源が周辺に存在していることも安倍川橋の魅力です。

② まちの発展に合わせて重ねてきた工夫

高度経済成長期、人口増加とモータリゼーションは静岡市のまちを拡大、発展させてきました。市街地が安倍川右岸にも広がったことで、昭和43年(1968年)には歩道橋を併設、平成2年には右折レーン設置のため一部区間の架け替えを行いました。そのほか、耐震設計基準の改定による耐震補強や塗装の塗り替え等、安倍川橋はさまざまな工夫を重ねることで、今も現役でまちに貢献し続けています(写真-3)。



写真-3 下から見上げると工夫の歴史がわかる

③ トラスの構造美と輸入鋼材

鋼材を三角形に組み合わせたトラス橋の中でも、弓のような形をした「ボーストリングトラス橋」として、安倍川橋は国内最長を誇ります。鋼材は全てイギリス製です。当時は八幡製鉄所が稼働し始め、鉄鋼の国産化が進んでいた時期ですが、安倍川橋は輸入鋼材を選択しています。

トラス構造の美しさもさることながら、端境期ならではの建設の背景は全国的にも面白い事例です。

3. 記念事業

(1) 安倍川橋散策マップ

地元小学校では普段から安倍川橋等の学校周辺の魅力を探究学習していることから、その成果を活用して散策マップとして取りまとめました。安倍川橋散策のお供として、多くの方に活用していただいています(写真-4)。

(2) 竹灯籠ライトアップ

建設100周年のお祝いムードを現地で感じられるよう、竹灯籠を用いたライトアップを100日間限定で実施しました(写真-5)。竹灯籠の製作には地元の小学生と高校生が携わり、点灯式では地域の皆さんと一緒にカウントダウンを行いました。柔らかい灯りの竹灯籠と鋼材が創り出す幻想的な雰囲気の安倍川橋は、今だけしか見ることができない景色として来訪者を楽しませてくれました。

(3) 橋名板の復元

安倍川橋の両橋門の上部には橋名額が設置されていますが、建設当時に掲げられていた「安倍川橋」の切り文字がいつからかなくなっていたため、この建設100周年を機に復元しました(写真-6)。

数十年ぶりに橋名を掲げた安倍川橋はどこか凛々しく誇らしげに見えます。



写真-4 ①安倍川橋散策マップお披露目



写真-4 ②安倍川橋散策マップ
(左上：にし編表面，右下：同裏面)



写真-5 竹灯籠ライトアップ



写真-6 復元した橋名板

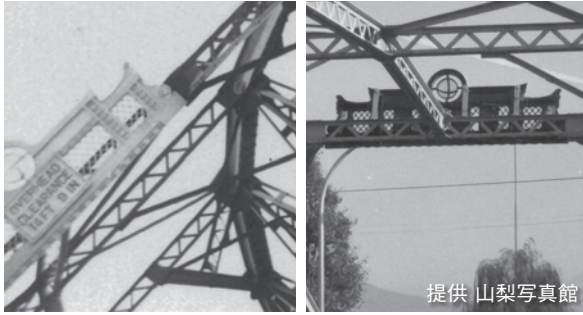
4. 新たな発見

(1) 橋名板の行方

前章でも紹介した橋名額は、いつどうして橋名板がなくなってしまったのか、その経緯が不明でした。そこで市民から古い写真を募集して、その行方を探りました。

写真-7左では「OVERHEAD CLEARANCE 14FT 9IN」と掲げられ、戦後のGHQ占領下で軍事車両の高さ制限を示す看板に取り替えられていたと考えられます。その後、昭和30年代(写真-7右)には安倍川橋の4文字と思われる4枚の板状のものが確認できますが、これもこの後、なくなってしまいます。

何度か掛け替えられていることはわかりましたが、まだまだ全容解明には至らないため、引き続



写真－7 橋名板の時代変遷

き、写真等を募り、橋名板の行方を追っていきます。

(2) 安水橋の橋板を用いた人形

記念事業を知った市民からの情報で、思わぬ新発見もありました。安倍川橋の開通により役目を終えた2代目安水橋の橋板を使って制作した、手乗りサイズの恵比寿様と大黒様です(写真－8)。

木箱の裏側に記された記録から、新しい橋の竣工を記念して、旧橋の日の出から3枚目の橋板を使って製作したことがわかりました。

別の市民から同様の情報がもう1件寄せられたことから、建設当時、記念としていくつか製作されたものと考えられます。先代の安水橋の名残に触れられる貴重な財産のため、引き続き、大切に保管いただくよう所有者にお願いしました。



写真－8 恵比寿様・大黒様と2代目安水橋

5. おわりに

安倍川橋建設100周年記念事業は小さな取り組みばかりですが、小学生から高校生まで多くの子どもたちに関わってもらい、安倍川橋やその地域に興味を持って活動してくれたことに大きな価値を感じました(写真－9)。

安倍川橋は、自動車対応の最初期の大規模橋梁で、輸入鋼材を使用した珍しい事例として文化的な評価を受け、今年8月に国の登録有形文化財に指定されました。引き続き、道路インフラとしての役割を果たしながら、これからは、地域を誇りに思い、大切にする心を育み、人と人をつなぐ“地域のシンボル”として後世に引き継がれていくことを願います。

今年で70周年を迎える安倍川花火大会が、偶然にも安倍川橋建設100年の誕生日前夜に開催され、大輪の花火でメモリアルを祝福してくれました(写真－10)。竹灯籠を写真に収めたり、安倍川橋越しに花火を眺めたり、花火大会に訪れた方々の夏の思い出に少しでも安倍川橋が映り込んでくれていると嬉しく思います。



写真－9 アーチ橋の仕組みを学ぶ小学生



写真－10 安倍川橋越しに眺める安倍川花火